

# ソーシャルイベント研究会レポート（6月19日）

■日時 平成26年6月19日(木) 16:00~17:45

■会場 日本イベント産業振興協会 会議室

■内容

第一部：ネタメッセ（16:00~16:25）

プレゼンター 沖佳保里 大根田利夫 鈴木純子

第二部：イベント見本市（16:25~17:25）

プレゼンター：小林政則（イベント支援ネットワーク）

～豊後高田市の取り組みと課題に見る～

「地域活力創造イベントの可能性」

第三部：会員情報交換



■出席者 14名

座長：小林政則（イベント支援ネットワーク）

石川文（電通テック）、内田なお子（昭栄プリント）、大根田利夫（ダーツ）

沖佳保里（コブタカンパニー）、梶原貞幸（JACE 認定研究員/淑徳大学兼任講師）

加藤淑子（エンコーポレーション）、鈴木純子（日本リ・ファッション協会）

田中滋（DEN&A Inc）、田中正人（電通テック）、原田周平（都市緑化機構）

真鍋誉司（電通テック）

（事務局） 小西功一、菊地浩之

## ■第一部：ネタメッセ（イベントコンテンツや商品のプレゼン）

1) 沖佳保里（コブタカンパニー）

「オリジナルデザインをネット販売しませんか？」

デザイナーの石川明氏の作品を販売するサイトに加え、テレビ東京の「デザインオフィシャルマーケット」と連携する事業を開始した。Tシャツやマグカップなどを、好きなデザインで1つから制作でき、ネット販売ができるビジネスに注目してほしい。

（石川明デザインマーケット <https://domarket.jp/ishikawa-akira>）



2) 大根田利夫（ダーツ）

「お好きな国の国旗で缶クロックを制作します」

152ミリの特大缶バッジに時計のパーツを取付けた、オリジナル缶クロックを販売開始した。ワールドカップにちなんだブラジルなど好きな国旗で缶クロックを制作できる。だれでも簡単に組み立てて使えるキットは1個2000円。注文はネットで1個から可能。



### 3) 鈴木純子（日本リ・ファッション協会）

「日本リ・ファッション協会の活動紹介」  
当協会は家庭で不要になった古着を活用して様々なリ・ファッションイベントを実施している。

写真右は、参加型の手作りイベントで来場者が制作した作品。シャツをリメイクした子供服と布でデコレーションした缶バッジ。9月1日からは第5回リ・ファッションコンテストの公開審査が始まるのでぜひ投票してほしい。



## ■第二部：イベント見本市（イベントに関する研究発表やケーススタディ、企画提案など）

～豊後高田市の取り組みと課題に見る～

### 「地域活力創造イベントの可能性」

小林政則（イベント支援ネットワーク）

（概要）

知人の移住先候補地である豊後高田市を訪問調査した事例から、地方自治体が推進している地域活力創造事業の一端を紹介する。また、平成の大合併により誕生した市町村が共通して直面する課題とその解決策につながるイベントのあり方を提案する。



（内容）

### ○豊後高田市の概要と現状

大分県北東部に位置し、人口は2万4000人弱。平成17年3月31日に1市2町が合併して誕生した。大分空港からのアクセスはバス（1日4本）で約45分。市内に鉄道はなく、隣接する宇佐市を通る日豊本線「宇佐」駅から市内中心部まではクルマで約15分程。バス路線の減少により、移動手段は自家用車を中心になっている。

昭和55年に3万人強だった人口は、平成元年頃から減少が続いて、町の中心地もシャッター商店街となっていた。こうした現象を解消するため数年間にわたる調査・検討の結果、平成13年に「昭和の町」づくりをスタート。最盛期の賑わい復活を目標に地域資産を活かした地域活力創造事業として市民、自治体が一体となって推進している。

### ○昭和30年代をテーマにした「昭和の町」

#### ●8つの商店街が協力して昭和の町並みを再現

平成13年に9店でスタートした「昭和の町」。現在は、約550mの通りに50の商店が参加して昭和の町並みを再現。それぞれの商店が多彩な手法や表現で商店街を盛り上げている。

- ① 昭和の建築再生（残存する家屋の利用）
- ② 昭和の商人再生（客との対面交流）
- ③ 昭和の歴史再生（一店一宝の展示）
- ④ 昭和の商品再生（一店一品の再現）



### ●建築資産を活かした観光シンボル施設「昭和ロマン蔵」

昭和10年頃に建てられた農業倉庫を改修して、「駄菓子屋の夢博物館」「昭和の夢町三丁目館」「昭和の夢町小学校」「昭和の絵本美術館」を整備し観光客の誘致を推進。ボランティアの市民が「昭和の町」をガイドして、年間約40万人の観光客を迎えている。



### ○「昭和の町」づくり＝市民の課題解決の町づくり

#### ●安心・安全で高齢者が元気で楽しい町

- ・トリックアート（5カ所）を取り入れることで「楽しく歩ける商店街」を演出し、同時に自動車の減速を促して「安全に歩ける町」とした。お年寄りも歩くことで健康寿命を高めるスマート・ウェルネス・シティ構想の導入により地域活力創造を目指している。
- ・空き家を活用した高齢者の拠点「コミュニティカフェ」の設置・運営
- ・世代間交流を図る「まちの駅」等、市民が豊かに暮らしやすい町づくりを推進している。



### ○自治体が推進する移住・定住支援

#### ●空き家バンク

使用されない約200軒の空き家が市役所に登録され、移住者のために情報提供を行っている。移住者が行う空き家のリニューアルには最大30万円までの補助金を支給。

#### ●豊後高田そばプロジェクト

平成15年から「昭和の町」のイメージに合う食材としてそばの栽培を開始。作付け面積は西日本で最大の規模。栽培したそばを打つ職人の養成と認定制度を立ち上げ、認定店の看板を付与して空き家を活用した出店の支援も行い、市外からの移住者増を促進。



#### ●充実した福祉・子育て支援策

住まい、子育て、保険、教育、暮らし、農業就労など、暮らしやすい町づくりを目指したきめ細かい行政サービスが推進され2012年には「住みたい田舎第1位（いなか暮らしの本）」に。

### ○地域活力創造イベントのあり方とイベントビジネス

#### ●財政難に悩む地方自治体

2005年（平成17年）をピークに各地で市町村合併が盛んに行われたが、特例措置として合併後10年間は地方交付税の優遇支給が約束されていた。豊後高田市も合併後10年を迎える来年以降は地方交付税の減額が予測されている。この問題は、市町村合併をした全国の自治体の共通の課題となっている。

#### ●これからの地方自治体に求められるイベントは

市制100周年が相次いだ1988年から1989年にかけて、全国の自治体ではミニ万博が開かれたが、個性に乏しいイベントが多いとの批判の聲が上がっていた。1985年の科学万博以降に通産省が提唱したジャ

パン EXPO 制度やイベント業務管理士制度など 国が主導して計画されたところにイベントの「金太郎あめ」現象が多発した。30 年後のいま少子高齢化、人口減少、財政難等を抱える地方自治体にはどのようなイベントが求められるのか、まさにイベント学会の研究テーマの一つである。

### ● ‘集めるイベント’ から ‘集まるイベント’ へ

オリンピックや万博のような巨大イベントを誘致したり、そのために政府や企業から多額の税金や協賛金を得ることは多くの地方自治体にとって現実的ではない。さまざまな社会的課題に向き合いながら地域ごとにテーマごとに企画、実施されている「ソーシャルイベント」が市民、行政、企業・団体のそれぞれに新しい価値を提供する活動のつなぎ役になるだろう。イベントをビジネスとして活動している我々にとって必要な発想は「イベントで人を集める」のではなく「人が集まるイベント」とは何かをテーマごとに考えることだと思う。ソーシャルイベント研究会の活動もこれを考える機会の一つと言える。

### ●ネットワーク化することがイベントビジネス創造のポイント

ソーシャルイベント研究会では、これまでネタメッセやイベント見本市でイベントに関するアイデアやビジネス情報を集めてきたが、イベントビジネスを牽引できるような人材の情報を共有化するために、新たにヒトメッセ（仮称）を展開してネットワーク化を図ってゆくこととしたい。

- ① 課題に対応できる多様なコンテンツの発見とネットワーク化  
(ソーシャルイベント、イベント商品、イベント技術)  
→イベント見本市、ネタメッセ
- ② 課題解決に対応できる多様な人材の発見とネットワーク化  
(ボランティア、学生、在宅ママ、退職シニア、個人)  
→イベント人材カタログ、ヒトメッセ

以上



## ■ 第三部：情報交換

### 小林政則（イベント支援ネットワーク）

#### ① 「板橋区シティプロモーション公募案件に関する報告」

本研究会の会員によるビジネスユニットを編成して、研究会にエントリーされているイベントコンテンツと会員のネットワークを活かした事業の提案を行った。結果は残念ながら不採用だったが、今後も公募案件等に提案を行いたい。主旨に賛同いただける会員の方はぜひ本研究会のビジネスネットワークにご参加いただきたい。

② 静岡県伊東市にて「ソーシャルイベント研究会 in 伊東」を計画中。次回の研究会で乃村工藝社の小島敏明会員から途中経過報告をいただく予定。本日の発表をベースに豊後高田市での開催も検討中。

### 鈴木純子（日本リ・ファッション協会）

9月に「リ・ファッションコンテスト」の展示投票会場となる浅草のアミューズミュージアムで、ソーシャルイベント研究会の開催を提案。

以上

ネットワークパーティ

ワールドカップブラジル大会の日本・ギリシャ戦前夜のためお休み。

★次回、7月のソーシャルイベント研究会

7月14日（月）16：00～17：45 イベント産業振興協会会議室にて開催